

逆さ天狗ともちむぎどらやき

むかしむかし日本には天狗という妖怪が空を飛び回っていました。天狗は好奇心旺盛で、人間界におりてはいたずらをしていました。ある日、福崎町の空を飛んでいた天狗は一軒の家を見つけました。なにかに惹きつけられるように天狗はその家へおりていきました。そこはすごく小さな家で、この家なら多くのいたずらができるぞ、と天狗はワクワクしていました。天狗が家の中でいたずらしようとしたそのとき、「だれじゃ！だれかいるんか！」天狗は驚きました。その声の主はそう、柳田國男先生だったのです。「天狗か。何をしに来たんじゃ」「天狗はいたずらをしに来たとは言えず、とっさに「お腹がすいて・・・」とうそをついてしまいました。すると、柳田國男先生は、「そういうことだったのか。それではこれを食べなさい」そういつてもちむぎどらやきを天狗に手渡しました。もらったもちむぎどらやきはとても香ばしくておいしく、すっかりもちむぎどらやきのとりこになりました。それから天狗は、好きなときにいつでも食べられるように、生家の近くに似たような小屋を建て、お腹がすいたころに小屋からでてくるようになりました。食べているところをみんなに自慢したいため、逆さになってもちむぎどらやきを見せびらかせています。いたずら心はむかしからかわっていませんね。

※この物語はフィクションです。